



令和6年(2024年)3月14日 公表  
 令和5年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

カタクチイワシ(対馬暖流系群)

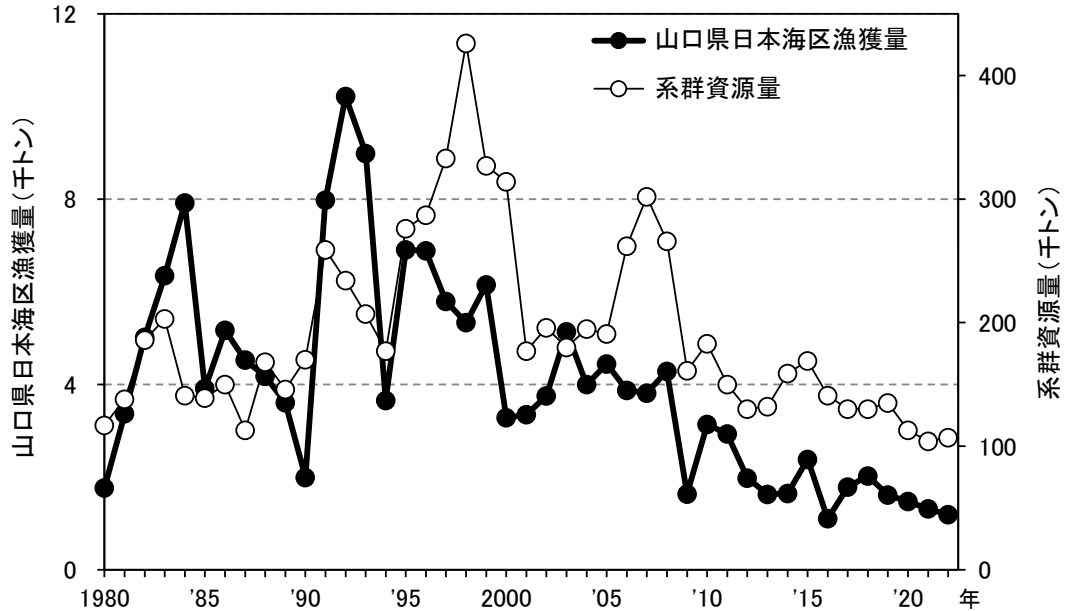


図 山口県日本海カタクチイワシ漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報)及び対馬暖流系群カタクチイワシ資源量((国研)水産研究・教育機構 資源評価報告書)の推移

【漁業】カタクチイワシは主に棒受網・抄網によりほぼ周年漁獲されるほか、春と秋には船曳網によりシラス・カエリが湾内で漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1992年の10,215トンをピークとして、その後は変動を伴いながら減少傾向にあり、2022年には1,188トンとなった。

【資源状態】資源量は1977年以降2020年まで増減を繰り返しながら11.3万~4.6万トンで推移した。2009年以降は緩やかな減少傾向にあり、2021年は過去最低の10.0万トンと推定されたが、2022年には10.7万トンとやや回復した。

2022年の親魚量(SB)は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB<sub>msy</sub>:目標管理基準値)を下回った。また、2022年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F<sub>msy</sub>)を上回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2022年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2022年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
3.8	5.1	4.7	8.4	3.2	0.4

\*暫定値